

映画「ひまわり」とウクライナ

成田 滋

1970年にイタリアで製作された映画「ひまわり」は第二次大戦中のウクライナとイタリアが舞台となっています。ジョバンナ(Giovanna)とアントニオ(Antonio)という恋人の出会い、ロシア戦線での過酷な戦いと生還、そして奇跡の再会と永遠の別れが主題です。撮影の舞台となったのはウクライナの中央部にあるポルトバ(Poltava)という自然が豊かで、ひまわり畑で知られているところ です。

ウクライナの歴史を調べると誠に複雑ですが、戦前の歴史は省きます。戦後ウクライナはソビエト連邦(ソ連)に併合され、国全体がソ連の一部となります。1917年のロシア革命で成立したソ連は1991年12月に崩壊し、ロシア連邦となります。ソ連の瓦解によってウクライナは共和国として独立を果たします。しかし、ロシアは2014年にウクライナの南にあるクリミア半島を併合し本格的な領土拡大に乗り出します。「ひまわり」の舞台はウクライナがまだソ連の支配化にあった戦時中です。

映画「ひまわり」に戻ります。アフリカ戦線行きを控えたイタリア軍兵士、アントニオはジョバンナとで出征を遅らせようと結婚し12日間の休暇をとります。アントニオを戦地へ送り出したいくないジョバンナは、アントニオの精神状態を偽って精神病院へ入院させるのです。しかし、その企てが発覚しアントニオは地獄といわれていたロシア戦線に送られることとなります。

戦争が終わり、ジョバンナは駅でひたすらアントニオの写真を掲げて、戦線から解放されて戻ってくる元兵士に消息を聞こうとします。ジョバンナは、アントニオが戦死者のリストに載っていることを知りますが、彼の死を信じません。そして激戦地



であった異国の地ウクライナに出掛け捜索を始めます。 ジョバンナかつて戦場となった街で写真を手にアントニオの消息を尋ね回り、イタリア兵士が眠るといふ広大なひまわり畑を訪れます。咲き乱れるひまわりは、一本一本が各国の戦没者を象徴していることも知ります。

彼の生存を信じて止まないジョバンナがあちこちで探し続けていると、ある時、写真を見た人からイタリア人が住んでいるという家を教えられ、訪ねて行きます。そこにはマーシャ(Masha)というウクライナ人女性が住んでいます。マーシャは、戦場の雪原で捕虜同然の姿で死にかけていたアントニオを救ったのです。そして記憶喪失に陥っていたアントニオと一緒に暮らすようになります。二人は結ばれて一人娘が生まれます。ジョバンナは汽車から降りてくるアントニオを見つけるのですが、声をかけることもせず汽車に飛び乗って涙に暮れ、酷く落胆しながらイタリアに戻ります。

アントニオもまた、駅でジョバンナを目にしてから苦悩の日々を送ります。数年後、妻のマーシャからジョバンナに会うように促されアントニオがイタリア行きを決めます。そして迷った末にジョバンナと再会を果たします。既にジョアンナも新しい生活を始め、工場で働きながら男と結婚し一人息子がいます。アントニオはウクライナでの生活を説明し、戦争が人生を変えてしまったこと、死にかけていた自分を救ってくれたウクライナ女性のことを語ります。

アントニオの家庭を壊したくないジョバンナはアントニオの苦悩を理解します。互いの別離を確信したアントニオはウクライナに戻る決心をします。そして、別れ際にアントニオは、長い間約束していた毛皮をジョバンナに渡します。二人は見つめ合いながら、かつて出征で見送った時と同じ駅のホームで別れるのです。



2022年3月14日